

ア一サ一王伝説に典り  
遅れがとんしまつた系ナイ  
トがとならずらを使っ  
普通ならまだ付か  
時間できムランの  
戦いにきょうきよ参戦

する話の嘘予告

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

名前忘れたがある皇帝死んだあとの話なんだが

大ローマ帝国は東西に扮された

中世と呼ばれるナイト時代の始まりである（感無量）

ナイト全盛期はさらに後なのでキャンセルしてカカツと年代ジャンプしながらエクスカリバ時代に進めて

各種歴史的イベント改変はハシヨるが

創作の伝統、中世ファンタジーワールドに事実上最強のナイトがいるらしい

詩人（ヒュム♀）は「素晴らしいナイトだすばらしい」と人格化してるようだった

「ほう？」と話を聞いていると聞けば聞くほど素晴らしく

ナイトは最強だと思った（リアル話）

それが俺がナイトなるものを知り目指すきっかけなのだよ（ストーリーモード）  
普通ならチーム活動のことで無視する賊がぜいんだろがおれは無視できなかつたみんなとよこびほめられたかつたの

で至高のナイト目指して全ナイト憧れの聖域だというキャメロット城に旅立つことにした（開幕）

チームに未練は無かったおれはパールを投げ捨てた（脱退）

いままでも強かったがこれからどこまで強くなるのか楽しみで仕方が無い（極楽）

以降はタイトル通りに進んでハッピーエンドする手はず

# 目次

アーサー王伝説に典り遅れてしまった系 ナイトがとんずらを使つて普通ならまだ 付かない時間でカムランの丘の戦いに きょうきよ参戦する話の嘘予告	— 1
---	-----

1 アーサー王伝説に典り遅れてしまった系ナイトがとんずらを使って普通ならまだ付か間でカムランの丘の戦いにきょうきよ参戦する話の嘘予告

アーサー王伝説に典り遅れてしまった系ナイトがとんずらを使って普通ならまだ付かない時間でカムランの丘の戦いにきょうきよ参戦する話の嘘予告

ほらまたおれに憧れだした奴が一人

これはもう認めるしかないでしょう

でも勘違いしてるね

別に恥ずかしい事じゃない

みんなもプライド持ってやってれば

そのうち軽く言えるようになる

おれはプライドの塊 だから一番強い

—— 作者がもつとも畏敬の念を覚えるブロンティストのさいつよ名台詞

まずは準備運動に軽く設問

トイチあらすじのブロント語に日本語に訳しなさい（100点）  
足切りラインは9点でいいおれは優しいからな

ここから本題なんだが

このストーリーモードは港町ヴァナ（訳注・バルナというブルガリア黒海側に実在ある港町の改編シティ）からカムランの丘（ブリテンの南半分のほうにあるらしいと噂の隠しエリア）までカカツつとダツシユするナイト志願者の話

ナイトと唯一互角の力を持つ赤ですら今回のエクスカリバー導入で騎士連盟の前に謝ることになる（実写）

確実にナイトはエクスカリバを手に入れたら高確率で一番最強になる

あの詩人（ヒュムリア♀）のうたを聞いて俺はそう悟ったよ

そのカーバーの今とこの持ち主はブリテンのキングだと

事実上最強のナイトらしい

3 アーサー王伝説に典り遅れてしまった系ナイトがとんずらを使って普通ならまだ付か間でカムランの丘の戦いにきょうぎよ参戦する話の嘘予告

それどころかアーチャー王の取りまくはいずれ劣らぬナイトばかりだという

すごいなー憧れちやうな（感心）

おれもナイトあげたほうがいいかも（想像）

だべなこれはもうナイトになるしかないでしょう（名案）

リアル話、グングルアースで検索したところだいたい走行距離3000kmくらいだからジョジョ大しち部と噂に名高いスチールボールランレースのだいたい半分の距離みたいだぞ？

ちよと算数したところお馬さんでがんばって走れば30日〜40日くらいでつくという情報もある

「馬鳥？」

必要ないんだが

もちろんこの脚のみで大陸横断して渡航する手はず」

ナイト志願者というエクスイヤという騎士階級の舎弟ジョブがあるみたいだな  
まあそんな下積みに頼らずとも俺の実力なら一速飛ばしてナイトだから関係なかつ  
た

だが旅立ちには親の許可が必要でオープニングは手始めに *t i t i o y a* 論破する  
ところからはじまる

「おいイオヤジ、どうやってもそいつらとうまくやれる自信がねえ。そろそろ抜けるわ  
俺」

おれは海賊にはおさまらぬだろうと D R A K を抜けると宣言した

海賊にはそれに見合った報酬が必要なのにリーダーがケチで何もくれなかった結果  
がこういう結果をもたらした

オヤジは「ガキがマジでふざけんよ？ 抜けさすワケねーつよお前は馬鹿か？」と  
いったが残念ながら引き止めたのがバレバレで

「今から3分以内に謝れ。そうすれば許す。早くしろ」という台詞に「おれはいつまでも  
良い子ちゃんではない良いなりにはならないんだが？」と言いかえしてやった



おれはそのときナイトになることしか頭になかったから

素直に気持ちトロロしただけそれなのにオヤジはやけに圧なつて

「最後のチャンスの忠告として警告してやる、何か言う事はないのか？ 答え間違つたら殺す」と脅迫

ついにはバーバリアンサイズ（D76 隔528 命中—5 攻+25 Lv49）

暗）両手にもちだす始末

ローマといえば家父長制だからよ、オヤジはマジぶつ殺しよにくるし罪にも問われな  
い（恐怖）

「おまえ今びびつただろ。はやく謝つといたほうがいいぞ」

「びびつてねーよ適当こくな全然余裕で勝ち誇つて笑ってるんだがオヤジこそもう絶体  
絶命」

いい加減バーバリアン信者ⅡD値しか見てない厨がうざいんでそろそろハツキリさせ  
ておこうと思う

盛大ななんか始まりそうなオーラが見えそうになつてる中世初期ヨーロッパ風  
ワールド横断ストーリーの一話目にシマの主を海賊やつつけさすとはソリティアの王

子のフオイヤーエンブレム話を意識しすぎたかも

「これで勝ったと思うなよ。覚えてろ」文字にもかけないタイマン後にはズタズタにされた銀髪の雑魚がいた

雑魚というにはあもりにもつよかったが寄る波には勝てなかったらしい限界のバトルだった

実際にはバーバリとファルカスの性能差で勝ったようなもん

やはりバーバリよりやはりファルカスだな・・・今回のことでそれがよくわかったよ  
父感謝

「勝負には勝ったが嬉しくないけど勝てない勝負をするなど言いたい墓穴を掘る」と勝利台詞をこぼすと「どこいくべき？」と余裕そうな返事

いっぱい血にまみれておとなしくなつたみたいだから普通に返事してやった

「ブレテンのキャメロト城というのがナイトの聖地らしい」

「そうかよ。さみしくなるな」

「そろそろ行くべ」

「先に言っとくけど二度とヴァナから出ていけ。凱旋するまで帰ってこれると思うなよ

？」

おれはオヤジのエルに押されて走る始めることとなった

あとに聞いた話だがこのとき目に光るものがあつたらしくそれに一晚寝たら全回復  
だつたらしい

勇者の業を背負つた者ははんぱじゃないよな回復力が並外れてる

馬鹿だなおまえ

わざと真似してみただけだ

イズゼクスというくらいだから多重クロスだし

時代のふいんきを感じる要素を豆乳しただけ

ほかにもイソツポ童話とかともエクスするかもしれないな

同じ時代を生きたという独自設定だけの事はあるよな

「待て。」

「何をする。私は陽の沈まぬうちに王城へ行かなければならぬのだ。」

「どっこい逃がさぬ。持ちもの全部を置いて行け。」

「私にはいのちの他には何も無い。その、たつた一つの命も、これから王にくれてやるのだ。」

「その、いのちが欲しいのだ。」

「だまれよお前の空しみにのしかかった水崖論は聞くだけでまともな議郎が遠ざかるのがわからないのか？」

「誰だお前は。」

「俺はただの通りすがりの両手持ち鎌をもつナイト（あんこく）」

「関係ないものはすっこんでいろ。」

「おいイお前。ここは俺に任せて先に行け」

走れ！ 名前も知れないやつ走れ！ カカツと走れ！ という言葉の裏情報よみ取った男は「名も知らぬ方よ。恩に着る！」とダツシュしだした

俺はその瞬間、ナイトの醍醐味を感じたよ。ああ守るって気分気持ちいいそしたら

「何故、われわれの、邪魔をするのだ。」

「謝礼など、望むべくもないというのに。」

「愚かなり。ここで、無意味に、死ぬことになるぞ。」

等等山賊のコスプレした王国兵どもが口々にウザいので

「ごちやごちやうるせえな。粘着かお前ら。御託はいらねえ。消え失せろ」と脅かしたら三太一が始まった

これはかこくな長距離走なので腹も減るし眠くなる

金策のためにグラディエントすることだつてあるのかも

俺は剣を使い手なのだが相手が残念な事に網を使ってきたので「お前それでいいのかわ？」と言うと「何いきなり話かけて来てるわけ？」と言われた。

くDRACKくメイトの一人がレティアリーの熟練者なのだが訓練でいつも勝つから相手が気の毒になったので聞いただけなんだがむかついたので「お前あんこくでボコるわ・・」と言つて開戦直後に魔力を溜めてドレインしたら多分リアルでビビつたんだろ  
うな、ガード固めてたからキャンセルしてカカツつとダツシュしながらグラディウス振るとかなり青ざめてた。

やはりグラットン持ってないと駄目か

俺もがんばって手に入れようと思ってるがなかなか大変だぜ

一級廃人の証っていうだけの事はあるよな

持ってる人憧れちゃうなー

（グラットン欲しいグラットン欲しい俺も欲しい俺も欲しい欲しい欲しい欲しい欲しい欲しい欲しい欲しい欲しい欲しい）

「暗黒騎士よ。ダークパワーに呑まれることなけれ。業をおさめこらえるのだ」

（無理……サポシ……w）

「いかんぞ！ このままではお前はナイトではなく内藤になってしまう！」

俺はソロランナーではないので固定も当然増やす手はず

なんだが急に牙抜いてきた>>オリキャラども

勝手にライバル視するなオレの圧倒的なPスキルの前におまえの命は長くない（不快）

ガルパン民族の大移動は歴史に残る騒動だったから教養に知ってるがそのフェイス  
タイプは見たことなかった

平たい顔族は応力人種でこのへんの生まれじやなさそうだったな……等と考えてる  
とゴザル語と黒いのの組合せの山賊は交易品ねらって押し寄せてきた

相手を見て強盗しろといいたい俺は「迷惑だからよせ俺が一人でやる」と言つて同行  
の商隊先走らせ

重りの同行者（戦赤詩）にはどっかから繰るかもしれない不意だまダンシングに備え  
に警戒させてると

む買つてくるゴザル語は何故か武器閉まったままだったんだが  
急に「居合抜きでゴザル」とかいつて正面から不意打ちしてきた（驚愕）

その瞬間から俺は平たい顔族の汚さが目についていた

盾が防いだが更にヒキョウ技が続くなんと黒いのも「居合抜きだぜ」とかいつて正面  
から不意打つてきたのである（愕然）

やりくちが汚いよな、平たい顔族つてのわ今のやりくちで覚えたからな

この民族はこういった本当に人の嫌がることしかやらない民族の集まりなんだなと

ほのかにわいてくるあおすじを立てて怒りパワー高めていると

急にピガツときて俺の視界が消滅した

忍／s 「馬鹿め！ 連携攻撃だ！」

戦／s 「おいアンタ大丈夫か！」

俺／s 「なんとかかなります。心配ありがとうございます」

赤／s 「あつそう。」

しばらく耐えてるとピッキーン！ 閃き発動（期待）

二回も連続して見せられては自然とリクツも分かってしまう

おれは地面を鞘に見立てて居合切返してやると

黒いのは「勝ったと思うなよ」と脱げだした

「もう勝負ついてるから」と返したがウィニングスキルに該当したこの新技はボルカ

ニツクと名付けよう

ジョ盤終わるとだんだん物語は西遊記属性っぽい風になる

どのへんがというと固定PTで西旅行してサブクエがけっこう頻発して起こるとい

う共通項



ちなみに風は英語で意味が分からない

おれは各種イベントをこなしながらも西のほうにいく足は止まらない

イベント1

「キサマが勇者口トだな！ 亡き先帝の恨みは晴らす！」

「俺が思うに偶然オーラが一緒になった人だと思うな

こういう人気のあるワールドではライフストリームが混乱してたまに良くあるらしいぞ俺じゃない」

自称魔王の子孫はいきようようときたのに勘違いでそうとう恥ずかしかったのか闇のワールドに帰っていった

おまえそれでいいのか？

イベント2

ふたたびのポチャムキンバスターを警戒して更に下がるがそのぶんずんずん歩み寄るさまは圧巻の一言

下段ガードしてもバスター（最強攻撃）でガー不

飛んで逃げてもヒートナツコル（大技始動の掴み攻撃）でガー不

これでもや事実上ガード不可能ではないか

「つよすぎる……」「そこかーッ！」俺の弱気のジャンプをかる攻勢外交の手腕がのぶてきたがカン一発で射程外

俺はただ国境を走り抜けたいだけなのにこの国のガーディアン〜ファイナルアトミックレイバスターモードプログラム〜の筋肉は固すぎた

「不逞の輩に、こゝこゝは通さん！　！　！」

雄々しく立つ男にプレシャーのまされそうになってこれはあぶない「調子に乗りやがって！」と吠えぶつとばし仕切りなおしたが

これ以上後ろがないので前門の筋肉前門の機神状態でどこにも逃げられないプレシャーを背負う事になった

仕方ないので取っておきの切り札を出す

ところでドラゴンクエストって知ってるか？　竜ばつ依頼の話なんだがドラゴンは本能的に長寿タイプなので

倒された勇者なパワー貸すことがまれによく宿る「ドラグンインストール！」俺はつかの間隆起しになって「手加減する必要は無さそうだな」と死の宣告してから逆襲の大殺界を発動したのだが

ガードされてしまう一見ボコボコにしているように見えるが「なんとという猛攻！だが凌いで見せる！」とピカピカ光って塞がれた

おれは肉盾の神髓を覗いたがしかし「かかったか？」とせめてをワザと止めると動きをコントロールされたガティアンじゃつんめつてガードバランス崩すそこに本命の投げ技が発動

お前は調子に乗ってしまったな

理想のテンポばかりがタイマンではない陽動におまえがおれの動きを読んだようにおれもおまえの動きを読んでいたのだよ

俺は「相手が悪かったな。しかし今まで闘ったガンディアンの中でももつとも強かった」と相手を地面にたたきつける荒技に続いて必殺コンボのガトリングガン決めるとノックアウトさせると同時に去っていった

イベント3

「さあ、回復してやろう。全力でかかってくるがいい！」

「四天王とかそういう幼稚なネタいらんないから

~~~~~このイベ終了~~~~~」

「~~~~~再開~~~~~」

勝手に話を終わらすなよ実は俺はデデオーザ四天王のうちの一人

前におまえらみたいのがこういつたくだらん騒ぎをした時食い止めた実績があるだよ  
召喚じゅうつぽいの暑苦しい威圧感におれの不快指数がたまってきたよ

実は俺はこういつた、自分の自慢話ばかりすふやつが一番きらいなんだが・・・

「実は俺は四天王No.1の攻撃力と言われているイフリント

正体知ったからといって恐れて逃げるなよ

ちゃんと論破して負けを認めてもらうからな」

「期待はしてねえ。適当にこい」

俺は牙剥いて構えたがどうやら炎上対決になりそうだった、どっちが熱いか勝負するかよ

「ナイト様盾してくださいますか?」

そこでいつの間にもやら勝手に俺の家来になった忍者はしたでにきたがその実アタツカー枠を上位ランカーねらつちえいるのは明らかで

本当にやりくちが汚いよ忍者は

オトモの侍は人に神経逆撫でるしよマジメに戦いと強いクセに

ネガティブペナルティーで弱体するのを世界がわるいことにしてる

おれの配下はむかつくやつばっかだ

どっかにマトモなやつはいないのかよ？

シャフト／当方ナ忍侍です@3りお待ちしています

イベント4

敵軍はもうなん万いるか数えきりがない9万で良い

「もうだめだー!」「逃げるんだー!」「勝てるわけがない!」と貧弱一般兵士が次次に諦  
めが鬼なつて逃げる腰になるなよおれが本気を出す

「一騎当然是ナイトの花道という名台詞を知らないのかよ」

と勇ましく言つてやると逃げ腰は止まった。そしたらなんか

両ザイドからあたりまえみたいに固定の金魚のフンみたいなのが目立ってきて

視線分散してじゃまだった

「ブロントだけに良いカツコさせてたまるかよ」

「ウザいぞ忍者じやのくせに。ついてくるなよ死にたいのか?」

「いいかブロントさん。ダークパワーは使うなよ」

「うるさい侍おれに命令するなダークパワー!」

その後ボコボコにして圧勝してやったがスコアは俺の勝ちなので脇役化した二人が  
アワレだった

## イベント5

ドナウ川にとつじよ湧いたガノトトスの群れ狩つて金策してたんだが  
三人でガノをボコつてる所に4人目が来た

ランス装備の戦士でPTの空気かわるかなと期待してたんだが

開戦後全員が密集する足下に陣取るランス明らかに手数の減るネガ侍と汚い忍者

3人で3分で終わっていたクエに4人で5分かかる始末

まあ初回の連携だしこんなもんかという感想

ちなみにこの汚い忍者とネガ侍はアビリティに頼らずとも

ガノタツクル程度は余裕で回避できる中級者程度の腕は持つていた者達

ラン戦士はというとアワレにもタツクルに飛ばされていた

それでもたまに回避できたのに満足しているのか

クエ後に「タツクル回避すごいですね」と褒めてやると「これぐらい余裕ですよ」と

何を勘違いしたのか

聞いてもないのに回避ランスがどうだとか竜騎士になりたいとか語りだした

俺からも目標金額が近づいてきてるだとかブリテン目指してるだとか

話題トレードわいわい楽しく会話していたところ忍者が「そろそろ一狩りいきましょ

うゝゝ」ときたのでランス戦士もついてきてもう1クエ行つた

戦闘が始まると忍者が「空蟬あるから分散させた方が良い」「こういう時はタゲ取れ」  
「取り戻す」と命令だしまくりで集中乱れてタツクル喰らつてた

終いには「はやく粉塵くれ紙兵代おまえがだすのかよ」とか脅しだす始末

討伐タイムは10分かかかかかった忍者のへたくソな指揮のせいで相当に時給を無  
駄にした感

そのクエ後にランス戦士から「わざと当たつてませんでしたか？」ときたが「指導料  
払え」と高圧的ににじりよつてもう最悪

ランス戦士は予想通り「用事が出来たので抜けますね」ときたが内心怒りのオーラが  
にじみ出ていた様が見てとれるだった

退室後「お灸をすえすぎましたかねゝゝ」と忍者が言う「god job!」と  
ネガ侍が褒めていた

ああこいつら本当に性格終わってんなと思つた

とんずらしてもついてくるし何なんだアンタら

このままでは俺の寿命がストレスでマツハなんだが・・・

イベント6

闇のワールドからリポップしたゾーマゾンビは暗黒魔闘術の構えでくるのだが生来あつたつばいキレはなくなつていて

ダークパワーの頃もは前大戦でうしなは割れてる

これではとてとてなのにとてとてじゃない強いレベルだと思った

汚い忍者とネガ侍は鬼の首をとつたかのような騒ぎでジョインジョイン連携タッグするのだがそうじゃないだろ

「おまえらは恥という心をまったくもたないで生まれてきたのか」

「うっせーアホントオ！ そんなモン犬に食わせてやったぜ！」

「敵は弱いうちに討てという格言もあるぞ」

「お前らにはローマの心、すなわちロマンティスト精神が足りてない

もつと心を広く持つことが必要不可欠」

口はうごかしたが手は出さなかつた変身タイムくらい待てないのかよ

ぞー魔は必死に変身するが時既に時間切れ。全盛期の闇のゾンマの実力取り戻すことなくアワレにも崩れて倒れた後には悲しみとただけが残つた

伝説のクライマックスに値する魔王戦がこんなでいいわけがない

畜生おまえらは馬鹿だ

後で覚えてろよ



## イベント7

3 on 3のタイマン戦「ブライダリヤクリプス！」と言いなながら突進してきたのがま  
ずは俺の対戦相手となった

明らかにタイマン向きじゃないヒラヒラ布装備の女は「私が勝つたらケツコンしてく  
ださい」と情熱的にきたが「ほう？」と盾で受け流すのだが

攻勢は止まらず「下です」「上です」とポンポンほりながら近づいたり離れたりの見慣  
れない武器でのガード揺さぶる動きに

翻弄されることなくおれは剣にまわり盾ガードを固くして隙を見せなかった

「お願い当たって」とブツパするさまはもうダメ見てられない好きだらけだったのだ

お返しの超必を入れてやり「超必はこういれない」というとボス格の奴が乱入して  
きたので

開幕グラウンドヴァイパーで根こそぎ勢いとゲージを持っていった

対戦相手スイッチしたネガ侍が「強い！ブロントさんはこんな相手と戦っていたのか  
！」とネガティブしながらも受け流しスキルで弾いてガトリングガン与えてたのが卑屈  
なのにつよくて性格の悪さがイヤらしくにじみでていた

忍者から「作戦はないのか」と裏t e e l 来たが「作戦？ 間合い？ よくわからん

が当たるまで殴ればいいじゃねえか」と返したところフライング大剣二刀流に蟬剥がれて切り刻まれてアワレだった

### イベント8

突如POPしたまぼろしの悪魔女にまよいこんでしまったおれはボスを倒すために入城したのだが

汚い忍者がペポウズザーズザーズザーズザー（以下略

一分たたないくらいで終わってしまい活躍の場が出なかった

おい、やめろ馬鹿。この悪魔城は早くも終了です

崩れる城見ながら「どや？」という忍者はこれはだれにも嫌われても仕方がない表情なのが明らかだったが誰も見てなかった

### イベント9

チヨコ宇内文明の巨人兵が世界の終わりみたいにわいてきた

ああまたしても文明はほろぶんだなとシモジモのものは茫然としてつつたっているばかり

おれは封印が解けられたスーパー・ロト専用ゼータ2にのめりこむと

フラシユがぼこじやかするのだがガチャガチャ押したりレバーぐるぐる回してるとなんかセミオートで動き出した

おれロトじゃないんだが良いのかよ？

「こいつ動くんだが」ポチポチしているとゼツツはロトの剣振り回して回転ソード斬りが虚心兵を切り裂く10人一気に倒した「親父が熱狂うするわけだ」これで気力150になったわけだが

何回かしているとパタンだいたいわかってきてブライインタッチするとブツピガンとスーパーメガビームライフフル（5000 1〜12）とりだしてビーヌがビシバシととびかった

それからしばらく夢想してたんだがボス格のバイブルの巨人が乱入してきて「それでこそわたしの」とデデオーザの外部音声が叫び聞こえなかった

終末のスーパーロボット大戦FF4が始まってしまった  
どっちが勝ってもかなりヤバイ

最後の審判の足音がちかづいてきてた

広げた風呂敷はたたまないぞ

はなし広げてたたまないが言語威力を構成するオーラの1つだとまだ感じないのかよ

考えるんじゃないオーラを読めという名台詞もあるだろ？

今のおれはそういう風にしてある

紆余曲折のまつ部隊はようやくブリテン島に

灼熱した戦いは終に危険な領域に突入する

先行した忍者がくずれそうになっているつぼいのがLS会話で叫んでいた

「どうやら忍者がたよりないらしく」「はやくきて〜はやくきて〜」と泣き叫んでいるネ

ガ侍

おれは伝説のナイトの伝説と名高いナイトオブブランドのためにとんずらを使って普通ならまだ付かない時間できょうきよ参戦すると（省略しています。全文読みたい方は感想をクツリク！）